(ア) 利用者選定の中立性・公正性を保証するため、選定委員会及び課題審査委員会を設置するとともに、利用者選定業務を実施するため、共用法に定める利用者選定業務を行う部門を設置し、専任の管理者を置く。

(イ) 選定委員会は、選定の方針等利用者選定に係る事項について意見を述べる。

(ウ) 課題審査委員会は、利用者選定の対象となる課題の審査・選定を行う。

(エ) 選定委員会及び課題審査委員会の委員の選任や課題審査の方法及び基準等については、HPCIコンソーシアムの枠組みの下での構成機関の合意形成により決定された意見を尊重する。

(オ) 科学技術基本計画等国の方針を踏まえ、我が国の国際競争力の強化、施設利用研究の科学技術への貢献度や発展性、社会経済への寄与や、社会通念に照らした妥当性等に配慮した適切な基準に従って実施する。具体的には、課題の科学的卓越性とプログラムの効率性を重視することとし、①科学的に卓越し、又は社会的に意義が高く、ブレークスルーが期待できる課題であること、②特定高速電子計算機施設が有する計算資源を必要としていること、③ソフトウェアの効率性、計算処理、データ収集、結果の解析手法等が事前に十分検証済みであること、という点を原則として選定の基準とする。

(カ) 特定高速電子計算機施設を含むHPCI資源全体を俯瞰し、その上で特定高速電子計算機施設の能力・特性を最大限に活かすことができるような課題を選定することが必要である。このため、理化学研究所の行う特定高速電子計算機施設の運用や高度化研究から得られる知見・技術を課題選定に活かす。

(キ) 登録機関は利用者選定の結果を公表する等、透明かつ公正な選定を行う。

三　適切な利用支援の実施

多様な分野の研究者等が円滑に特定高速電子計算機施設を利用でき、また、研究者等のより先端的・革新的なニーズにも対応できるよう、適切な支援がなされなければならない。このため、登録機関が行う利用支援業務については、以下の点に沿って行われる必要がある。

(ア) 利用支援業務の一元的な窓口を担い、各種の情報提供及び利用相談、アプリケーションの調整・高度化の支援、課題についての技術相談、講習会の実施その他利用支援に必要な業務を行う。

(イ) 利用支援業務を実施する際には、HPCIコンソーシアム及びその構成機関の協力を得つつ、当該業務を担う部門を設け、同部門に「研究実施相談者」、「ネットワーク管理者」、「情報処理安全管理者」を置き、利用支援業務を行う。

(ウ) 特定高速電子計算機施設の設置、開発、整備、運転、高度化研究を通じて理化学研究所が獲得、蓄積する知見や技術を活かし、登録機関が利用支援業務を充実することは重要である。このため、理化学研究所は、このような知見や技術の獲得、蓄積に努める。また、登録機関は理化学研究所の意見を踏まえて、施設利用研究に係る相談への対応や研究内容に応じた情報の提供等を適切に行う。

四　計算科学技術研究及びそれを支える人材育成の推進

特定高速電子計算機施設が最大限に活用されるとともに、計算科学技術の分野における将来の継続的な発展が確保されるためには、特定高速電子計算機施設を活用することにより計算科学技術研究及びそれを支える人材の育成を推進する研究教育拠点を構築することが重要である。

このため、理化学研究所や登録機関をはじめ、大学の情報基盤センター等、計算科学技術研究等について知見を有する機関が、施設・装置、シミュレーション技術等の高度化を図りつつ、最先端の利用研究を進めるとともに、その成果を適切に情報発信していくことが期待される。

また、研究の推進に当たっては、理化学研究所及び登録機関、その他関係機関が適切な役割分担のもと、計算科学技術研究を支える人材の育成に努めることが重要である。

五　施設利用研究の成果の取扱い

施設利用研究の成果は、科学技術の振興を図るとともに、スーパーコンピュータの利用分野等に関する新たな知見を活かした特定高速電子計算機施設の更なる利用を促進する観点から、知的公共財として積極的に公表し、普及されるべきものである。

このため、理化学研究所及び登録機関においては、その成果の公表を促進する方策を実施するとともに、利用者相互の情報交換が適切になされるよう配慮する必要がある。

ただし、知的財産保護の観点から施設利用研究の成果を公表することが難しい場合には、特許権の確立、製品化等による成果の普及を図ることが求められる。

六　理解増進活動の実施

より広範な科学技術の分野における研究者等による特定高速電子計算機施設の利用が促進されるためには、特定高速電子計算機施設とその利用についての情報が多くの研究者等に対して適時に、かつ、的確に提供されることが重要である。このため、理化学研究所においては、登録機関やHPCIコンソーシアムと協力し、各種広報誌やホームページ、各種シンポジウム、学会等の場を利用して積極的な情報発信を行い、利用者の裾野を広げるとともに、利用者との情報交換等を活発に行うこととする。

また、特定高速電子計算機施設は、国費を集中的に投資してその開発・整備が行われるものであり、その効果的な活用のためには国民の理解と支持が必要である。このため、特定高速電子計算機施設の重要性等について、国民に対しわかりやすい形で成果の発表や公開を行うこととする。

更に例えば、運用開始後に、大学等と連携して、青少年等を対象とした科学技術に対する理解増進に貢献する取組等を行うことも重要である。

七　国際交流の推進

国内外の関係する研究機関及び研究者等の交流による多様な知識の融合を図ることにより、我が国が世界の科学技術振興を先導し、これに貢献するとともに、国際競争力の飛躍的な向上につながる研究成果を創出するためには、特定高速電子計算機施設を国際的な頭脳循環における中核的拠点として位置づけ、その積極的な活用を図ることが重要である。

このため、理化学研究所及び登録機関においては、原則として、施設を海外の研究者等にも国内の研究者等と同様に公平に共用に供することで、国内外の研究者による先端的・革新的な研究等を促進するとともに、国際的なシンポジウム等を積極的に開催し、その成果を世界に向けて発信することにより、世界の中で存在感を発揮することが必要である。

第三　特定高速電子計算機施設の整備に関する事項

計算科学技術の分野では研究開発が急速に発展しており、常に新たな技術や知識が生み出されている。このため、超高速電子計算機の開発については、最先端かつ最高の性能を達成すること及び優れた成果の創出が継続的に行われることを目指して、国際的な研究開発状況にも注意を払いながら、適時に、かつ、適切な方法で評価を行い、厳しい財政状況を踏まえ、経費の効率化を図りつつ、適切に進めることとする。

その際、科学技術基本計画等を踏まえ、国際競争力の強化に配慮しつつ、計画的に実施していくことが必要である。

また、特定高速電子計算機施設の整備に当たっては、機器性能の高度化を含め、特定高速電子計算機施設が効果的に活用されること、利用者のニーズが適切に反映されることが重要である。また、特定高速電子計算機施設は、HPCIの中核としての役割が期待されている。このため、理化学研究所においては、HPCIコンソーシアムと適切な連携を図り、HPCIコンソーシアムを通じて得られる幅広い分野の研究者等の意見や国内外の研究開発の動向等を適切に把握しつつ、計画的に整備を進めることが必要である。

第四　特定高速電子計算機施設の運営に関する事項

特定高速電子計算機施設の共用に当たっては、HPCIの中核として多くの研究者等にとって使いやすい運営が行われることが重要である。また、特定高速電子計算機施設から優れた成果が創出されるような運営が行われることも重要である。

運営に係る業務の実施に当たっては、透明性を確保しつつ、公正な手続きに従い、全体的な施設の運営が効果的かつ効率的に行われるようにするとともに、理化学研究所と登録機関が適切に連携を図っていくこととする。